

5 ～ 11 歳の小児への新型コロナワクチンについて

当院では 5 歳～11 歳の方への新型コロナワクチンを接種します。それにあたり私の考えを以下に述べます。

➤ 副反応について

5～11 歳の接種においても、12 歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱の症状がみられますが、自然に回復します。

コロナワクチン接種後に起きるとされる心筋炎ですが、実際にはコロナウィルスに感染したために起こる心筋炎の方が、頻度は高くなります。米国でのワクチン接種後の心筋炎の割合は、5～11 歳では 12～15 歳や 16～17 歳より低く、また経過観察で全員回復したそうです。

接種後 4 日程度の間にお子様に胸の痛み、動悸、息切れ、むくみ等の心筋炎を疑わせる症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診して頂ければよいと思います。

➤ mRNA ワクチンには長期的な体への影響はないのか？

ワクチン中の mRNA を利用して免疫物質が作られた後、mRNA は数分から数日で分解されるため、体の中の DNA に組み込まれることはありません。我々の体内では DNA から mRNA が作られて、DNA の遺伝情報が伝えられますが、この流れは一方通行で、mRNA から DNA が作られることはありません。このため mRNA ワクチンを接種しても、その情報が長期に残って精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと言われています。一方コロナウィルスに感染すると、我々の体内でウィルスは自己の遺伝子を複製して、

細胞内でウイルス量を数百倍にも増幅させてから細胞外へとび出した後、周辺の未感染の細胞に侵入して感染を繰り返していきます。ワクチンの mRNA 以上にたくさんのウイルス遺伝子が体内で作られるのだから、一番危険なのは自然のウイルスに感染することではないでしょうか？

➤ 5～11 歳の小児にワクチンを接種するメリットは

『子供は罹っても軽症だし、ワクチンなんか打たなくても自分の力で治るから大丈夫』という御意見は、お子さんの健康面以外に周囲への影響や感染拡大を考慮する視点が抜けているように思われます。感染を放置して重症者が増えてしまわないように、元気なお子さんでも 10 日間もの自宅待機を頑張っているのですから。

一定の発症予防効果と重症化予防効果があるワクチンを接種することは、全く無防備にウイルスに感染したり、感染拡大を自然に任せるよりもメリットがあると考えます。